

## I 概要

### 1 研究主題

学習への粘り強さと自己調整力の育成 ～単元のPDCAの展開と充実～

### 2 研究のねらい

令和2年度～令和4年度の校内研究を踏まえた実践を行い、生徒の学習への粘り強さや自己調整力の育成をめざす。

### 3 R6年度の研究手法

- ① 学習指導要領に照らし合わせて作成した「千代中学びプラン」（年間計画）を一人ひとりが常に意識し、単元や学習のまとまりごとに、単元計画を生徒に対して提示する。「目標の提示」や「つけたい力は何か」、「他教科との関連はどこか」、「それをどのように測定(評価)するのか」等を生徒に伝え、見通しを持って生徒が学習に取り組むことができるようにする。
- ② 各教科担任がPDCAを基にした授業づくりを行い、授業公開をして、研究主題の探求を行う。
- ③ 3グループに分けてグループ毎・教科毎に研究主題に迫り、授業研究を進める。
  - 第1グループ：国語科＋英語科＋音楽科
  - 第2グループ：数学科＋理科＋技術・家庭科
  - 第3グループ：社会科＋保健体育科＋美術科

### 4 年間の実践内容（具体的な日程・内容について）

月日	内容	詳細
4/8(月)	【第1回校内研究全体会】	今年度の研究について下記の確認・修正 ① 教科年間計画、全教科年間カリキュラム ② 教科単元計画 ③ 所属グループでの研究授業発表者の決定
5/23(木)	【第2回校内研究全体会】 *教頭による講習会とグループ協議	教頭より学習評価について講義。 グループ協議のテーマは、「学習への粘り強さと自己調整力を育成する上での支援を要する生徒に対する手立て」
11/18(月)	【第3回校内研究全体会】 *研究授業	社会科、国語科よりそれぞれ一名が公開研究授業を実施。 第2回全体会と同じテーマでグループ協議を実施。
3/18(火)	【第4回校内研究全体会】 *次年度の年間計画の仮決定	今年度のまとめ、来年度の校内研主題(案)を提示。 今年度の実践内容と振り返りを各グループで行う。

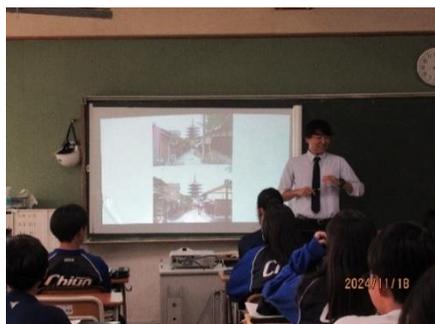
## 5 11月全体会 実践発表

小田原市教育委員会より栗原尚美指導主事、県西教育事務所より三城孝明指導主事にお越しいただき、授業の参観と助言をいただいた。各授業に対する助言と、生徒主体の学習サイクルである AAR サイクルのお話をいただき、学びが深まり、また、新たな視点を知ることができた。

2年2組 社会科 授業者 片野直哉教諭

単元名 第3章 日本の諸地域 第3節近畿地方  
4 古都京都・奈良と歴史的景観の保全

生徒が課題に対して自分の意見を持って話し合いができるように、身近に感じられるような課題設定をして授業が行われた。生徒たちが、自分の意見を相手に伝えたり、相手の意見に共感したりする場面が多く見られた。



2年5組 国語科 授業者 清水咲希教諭

単元名「文章の比較を通して発見したことをまとめよう」

「君は『最後の晚餐』を知っているか」と「『最後の晚餐』の新しさ」を比較し、共通点と相違点を整理した。生徒が見通しを持って学べるように工夫し「対話」を大切にされた授業が行われた。生徒達はグループで活発に意見を出し合っていた。



## II 成果と今後の課題

各教科で「単元計画」や「学びプラン（年間計画）」を提示することで、生徒に学習の見通しを持たせ、粘り強く学習に取り組む姿勢を育んできた。4年間取り組みを続けてきた中で、学習サイクルに乗れない生徒への支援の必要性が感じられていた。そこで、今年度は、取り組みを継続しながら、「学習への粘り強さと自己調整力を育成する中で支援を要する生徒に対する手立て」について、情報交換や協議を重ねてきた。各教科での困り感を共有し、学習のゴールの示し方、振り返りのさせ方の工夫、授業形態の工夫など、各教科での実践を伝え合い、授業改善の一助とすることができた。

11月の全体会では2つの研究授業に対し、指導主事からのご指導を受け、生徒が粘り強く学習に取り組むための手立てについて改めて学ぶことができた。また、年間を通して全職員が授業公開を行い、お互いに授業を見合うことで学びを深める機会となった。

来年度も「学習への粘り強さと自己調整力の育成」をテーマとし、また、個人でのテーマを個々に設定して、さらなる研究を深められるようにする。お互いに授業を見合う機会や職員間で情報共有して授業研究する時間を引き続き大切にしていきたい。